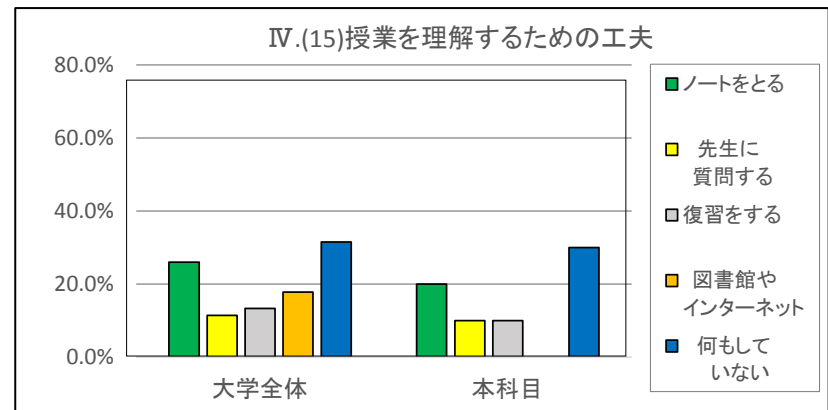


※レーダーチャートの平均は4段階評価 4(そう思う)、3(ややそう思う)、2、(あまりそう思わない)、1(そう思わない)

| 〈※複数選択可項目〉 | ノートをとる | 先生に質問する | 復習をする | 図書館やインターネット | 何もしていない |
|---------------------|--------|---------|-------|-------------|---------|
| IV.(15)授業を理解するための工夫 | 20.0% | 10.0% | 10.0% | 0.0% | 30.0% |



| | 設問No. | 科目平均 | 全体平均 |
|---------|---------|------|------|
| 自身の受講姿勢 | I.(1) | 3.70 | 3.45 |
| | I.(2) | 3.60 | 3.56 |
| | I.(3) | 3.20 | 3.07 |
| 講義内容・方法 | II.(4) | 2.90 | 3.01 |
| | II.(5) | | |
| | II.(6) | | |
| | II.(7) | 3.90 | 3.33 |
| | II.(8) | 3.90 | 3.42 |
| | II.(9) | 3.80 | 3.30 |
| | II.(10) | 3.50 | 3.23 |
| | II.(11) | 3.70 | 3.21 |
| | II.(12) | 3.80 | 3.48 |
| | II.(13) | 3.90 | 3.45 |
| 満足度 | II.(14) | 3.90 | 3.41 |

| | |
|-------|----------|
| 授業年度 | 2017年度後期 |
| 時間割番号 | 22109 |
| 科目名 | 国文学 I |
| 教員名 | 阿尾 あすか |

①授業計画の達成度について

当初の到達目標である、日本古典文学についての基礎知識については、近世までの物語についての文学的知識を身に付けさせるように努めた。このことについては、学生の講義中での振り返りやレポートの内容から、一定の段階に到達したと言える。しかしながら、当初のシラバスのもう一つの到達目標、中世和歌に及ぼした影響については、学生の知識等の現状より講義ではあまり触れることができなかったため、達することができなかった。今後改善に努めたい。

②授業の進め方について

講義については、構成を必要な文学知識習得のための時間(講義)と知識の定着化をはかるための時間(ワーク)とに分けた。このことについては、学生の受講マナーや意欲、授業に対する熱意などを引き出すことができたと考える。しかしながら、授業時間以外での学修活動については、教材などは紹介しつつもあくまでも学生の自主性に任せすぎてしまった点があり今後の課題である。教材の紹介以外にもどのように学習すればよいのかを指導する必要があったと考え、今後改善してゆく。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

講義の構成や内容、時間配分については、アンケートでも高い満足度を得られているので継続して行ってゆきたいと考える。アクティブラーニングのような形式の場合、つぶやきから授業が展開することもあるため、私語対策が十分でない点があった。今後は授業に関係のある内容の発言と私語を厳密に分けるよう工夫する必要がある。また、授業時間以外の学習活動についても指導を行う必要があった。今後は、教員の側から課題を設定して、課外にどのような活動をすればよいのか指示してゆくことにする。

| | 本科目平均 | 全体平均 |
|------------------------|-------|------|
| 自身の受講姿勢 I.(1)~(3) | 3.50 | 3.36 |
| 講義内容・方法 II.(4)~(13) | 3.68 | 3.30 |
| 総合的満足度 III.(14) | 3.90 | 3.41 |